



# 金融商品ガイド

## 米ドル急落対策 金投資も有効

### 前

前に続き米ドル急落対策について考えてみたい。図1に昨年以来の主要通貨の対米ドル相場を示した。米ドルに対して円だけが下がっており、それ以外の通貨は上昇していることがわかりたいだけだろう。2006年1月の水準から見ると、円以外の全通貨が対米ドルで5〜13%程度上げている。さらに米ドルが急落するような事態に陥ることを想定すれば、どのような対策が有効であろうか。前回は普段あまり意識されていないスイスフランを取り上げた。今回は金を取り上げようと思う。

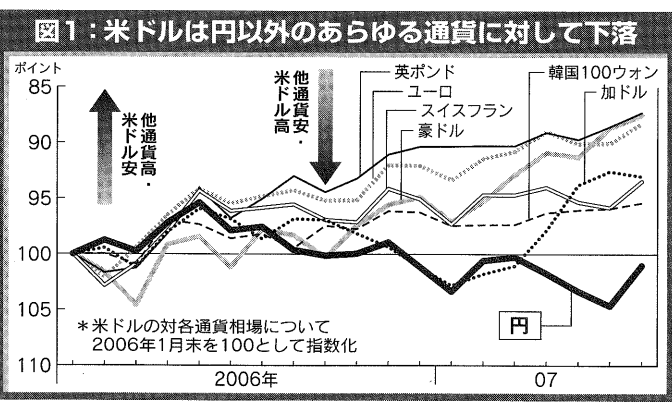
投資の世界では「米ドル相場と金価格はトレードオフ(二律背反)の関係」との原則が知られている。つまり、世界中を駆け巡っている投資、投機資金は「米ドル」と「金」とを裁定するために、米ドルが下げれば金を買われ、米ドルが上昇している時期には金価格は低迷あるいは下落するというのだ。

このジンクス(原則)はどの程度実際のデータで検証可能だろうか？ まず図2をご覧ください。円ドル相場と国内金価格の推移を描いたものだ(週次ベース)。06年末までは相当きれいに「米ドル高・金価格上昇」「米ドル高・金価格下落」の関係が現れている。しかし、その後はむしろ逆に動き始めた。あるいは因果関係が途切れた。これは07年以降になって米ドル高・円安が進展する過程で、為替要因で国内金価格が上昇するというメカニズムがより強く働いたためと見られる。

では、米ドルの強弱感に対しては、米ドルの強弱感に対して円ではなく、対ユーロで見た図3はどうか。あらためて考えれば、米国の側から「米ドル安」といえば、第一義的には「対ユーロ」であるはずだ。もちろんこれは「米ドル・円取引」よりも「米ドル・ユーロ取引」のほうが圧倒的に規模が大きいのである。図3では非常にきれいに「米ドル高・金価格上昇」「米ドル高・金

価格下落」が現れている。つまり先に述べた「米ドル相場と金価格との逆相関」は対ユーロで見た場合は相当の確率で正しいと実証されるのだ。であれば、今後とも米ドルが対ユーロで下落する公算が大きいと見れば、金投資は相当程度有力な投資対象となる。

ドル急落が懸念されるに至った7月から8月にかけて相次いで金関連商品がデビューした。ひとつは7月から東京工業品取引所で、金の先物取引にミニ取引が導入されたこと。取引単位は従来の1キログラムから10分の1の100gに、取引に必要な最低証拠金も9万円から1万2000円に引き下げられた。ふたつ目は8月に大阪証券取引所に上場された金ETF(正式名称は金価格連動型上場投資信託)。金価格にほぼ連動するように設計された有価証券に投資することで、金価格変



動に連動させる仕組み。1売買単位は10口からで、1口当たりの価格は金1g当たりの価格として表示される。現時点だと2万7000円程度から投資が可能。以上の金投資は、米ドル安に伴うリスクを軽減する以上に、米ドル安で収益を上げるチャンスにすることができるとい

